

iTesting チャンネルによる HIV 検査体制の構築と確立のための研究

研究分担者：吉田理加（愛知県立大学外国語学部）

研究要旨

本研究は様々な異なる形態の HIV 検査を実践するための基礎資料（マニュアル）を作成することを目的としている。研究分担者が属するアウトリーチンググループでは、外国人など多様な人々のコミュニティにアウトリーチをする方法を模索した。例えば、外国人コミュニティへのアウトリーチのために昨年に引き続き iTesting@Nagoya ウェブサイトと予約サイト、そして検査通知サイトを昨年に続き多言語化し、中国語とインドネシア語を追加して合計 7 言語に対応するようにした。また言語別広報カード、検査会告知ポスター（多言語）、多言語広報のための SNS の開設、HIV と iTesting 検査会の啓発動画多言語字幕版などを作成した。また、アウトリーチの方法について翻訳言語のコミュニティが性感染症防止のターゲットとみなされないようなアプローチが必要であること前提に取り組むことが非常に重要であることも明らかになった。

A. 研究目的

本研究は、現行の HIV 検査体制に加えて様々な HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進めるための基礎資料（マニュアル）を作成することを目的とする。その中で、外国人や学生、LGBTQ など多様なコミュニティへのアウトリーチのよりよい実践方法を考察する。

B. 研究方法

アウトリーチ活動として、iTesting@Nagoya の HIV 検査の重要性を説明した啓発資料の作成および設置、検査の広報（SNS での発信・動画配信・多言語対応）、検査を評価するためのアンケートの作成（多言語対応）・解析、検査施行可能な場の模索、各コミュニティでの啓発活動、多言語対応した iTesting@Nagoya ウェブサイトの作成を行うこととしている。

本年度は、昨年度に引き続き、iTesting@Nagoya ウェブサイトと予約サイト並びに検査結果通知サイトの多言語化を行い、日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語に加えて新たに中国語とインドネシア語を作成した。さらに、多言語広報カード、HIV と iTesting@Nagoya に関する啓発動画（多言語字幕付き）の作成も実施した。さらには、試験会場で多言語表示を実施した。

多言語化のためにどの言語への翻訳を実施するかに関しては、名古屋医療センターにおけるよく用いられた通訳言語と愛知県と名古屋

市の外国人住民の人口比を考慮に入れて決定した。多くの言語に翻訳すること、並びに何語に翻訳するかの決定は、特定の言語コミュニティに iTesting@Nagoya 検査会で扱っている性感染症の負のイメージを結び付けた偏見を生じさせないためにも重要である。

（倫理面への配慮）

検査は、予約からすべて匿名検査で行っている。またアンケート調査も匿名で行い、名古屋市立大学の倫理審査を受審の上実施している。本年度は、多言語でアンケートを実施するには、システム上機械翻訳を使用せざるを得なかったため、人間の翻訳によるアンケートの多言語化は見合わせた。

C. 研究結果

アウトリーチ担当が目的に掲げていた活動のうち、多言語ウェブサイトと HIV 検査の重要性を説明した多言語スライドの作成では、昨年度の 4 言語に加えて、中国語とインドネシア語を追加して 6 言語¹に対応した。さらに、啓発動画の作成では iTesting についての説明と HIV 感染とエイズ発症予防に関する啓発動画 2 本を今橋真弓医師が作成、それを 6 言語の翻訳字幕をつけて公開した。また、iTesting@Nagoya のウェブページや上記の啓発動画につながる広報カードを愛知県内の自治体や国際交流協会に日本語と上記 6 言語で配布したり、SNS で拡散したりして、啓発活動を

¹ 6 言語とは、翻訳の目標言語の数をさし、英語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム

語インドネシア語、中国語であり、それに日本語を加えた 7 言語で運用している。

展開することができた。

D.考察

多言語コミュニティへのアウトリーチに取り組む際、翻訳は最初の一步にすぎず、該当言語コミュニティに影響力を持つコミュニティの成員（インフルエンサー）の協力を得ることにより、発信メッセージの信頼性が高まり、拡散効果が出るようである。そこで、当初は各言語コミュニティのインフルエンサーが検査会の手順をそのコミュニティの言語で説明する動画を作成し、広報する計画をたてていた。しかし、HIVに関しては、根強い偏見を有している文化・社会背景を持つコミュニティが多く、そのため、動画で iTesting 検査会の手順を説明するインフルエンサーがネガティブな評判や批判にさらされる危険があるとの意見も寄せられたため、見合わせることにした。

実際に SNS で多言語広報カードをエスニックニュースメディアに掲載してもらった際に、その SNS のコメント欄には、以下のような中傷とも考えられるコメントが寄せられた。

表 コメント例

多くの日本人は HIV やその他の病気は外国人だけの問題だと思っている。
（検査会）は不潔な人たちのためのものさ（笑）
不潔なやつらはどんな虫けらにでも手を出して感染するっていうのは事実なんだよ
税金からではなく、彼らのポケットから払わせろ。

このようなコメントの他に、性感染症の無料検査会を、健康促進の機会として好意的に受け止める書き込みも見られた。しかし、匿名ではなく実名であからさまに批判を展開する上の表に例示したようなコメントが複数あった。換言すると、HIV などの性感染症検査会に対して否定的で偏見に基づいた差別的な行動がとられる傾向も垣間見られた。これは、上述のコミュニティのインフルエンサーを登場させての検査会手順を説明する広報動画の作成を見合わせた理由とも一致する。

よって、HIV などの性感染症というテーマが各コミュニティにおいてタブー視されている状況があることがわかり、iTesting 検査会の広報協力者にネガティブな影響が出ないように配慮も必要であることがわかった。

また、実際の外国語話者の検査会の予約並びに受検であるが、予約開始後数日で、ときは予

約開始当日に 300 名の定員が埋まってしまう状況があった。そのため、迅速にしなければ予約がとれない状況がある。そのような状況でも外国語ページから予約をとった人が 9 月の検査会では 10 数名存在していたが、12 月は 3 名程度に減少した。12 月は外国語ページからの予約が少なかったのは、予約の取りにくさ、定員の埋まる速さと関係していると思われる。

E.結論

HIV の正しい情報を多言語コミュニティに広く啓発することは健康の維持・向上という社会的意義がある。さらには、アウトリーチングの手法を理論・実践的に構築することには学術的・国際的意義がある。しかし現状では、社会・文化によっては今なお色濃い偏見や差別などが存在しており、多言語でのアウトリーチ活動に混乱をもたらしていることがわかった。そのような状況を踏まえて、来年度は、コミュニティで HIV に関してどのような意識・認識を持っているかを調べ、各コミュニティ毎に有効だと考えられる多言語アウトリーチ手法をマニュアルとしてまとめることを目指す。

F.研究発表

1.論文発表

1. Yoshida, R. & Itoigawa, M. (2023). Nuevos retos y responsabilidades de una universidad en los estudios de TISP en Japón. In Valero, C. (Ed.). E-Book TISP en Transición / PSIT in Transition. Publicaciones de la Universidad. DOI: <https://doi.org/10.37536/VISG5657>

2. 実践報告

1. 吉田理加・小池康弘・糸魚川美樹（印刷中）.
「「UNHCR 難民映画祭パートナーズ上映」と動画講演におけるコミュニティ通訳実習実施報告」『共生の文化研究』第 18 号.
2. 吉田理加・小池康弘・糸魚川美樹（印刷中）.
「コミュニティ通訳学と多言語防災の取り組み」『共生の文化研究』第 18 号.

2.学会発表

国内

1. 武田珂代子・辛島デイヴィッド・宮田玲・嶋津美和子・吉田理加 「日本におけるトランスレーションポリシー」プロジェクトの活動報告 日本通訳翻訳学会第 24 回年次大会（関西大学） 2023 年 9 月 2 日
2. 吉田理加・今橋真弓・金子典代 無料匿名性感染症検査会 iTesting@Nagoya における多言語アウトリーチ実践報告：「プリエ

ディット(前編集)の工程に着目して」 日本通訳翻訳学会第 24 回年次大会(関西大学) 2023 年 9 月 3 日

3. 飯田奈美子・斎藤美野・坪井睦子・蓮池通子・水野真木子・吉田理加 「ドキュメンタリー作品『ナディアの誓い』の通訳翻訳学的分析: データセッションでの考察から」 日本通訳翻訳学会第 24 回年次大会(関西大学) 2023 年 9 月 2 日
4. Yoshida, R. Cómo traducen los intérpretes los enunciados discriminatorios: Análisis narrativo de los estrategias pragmáticas de interpretación. May 28, 2023, CANELA 35th Annual Congress (Nanzan University).

国外

Yoshida, R. Multilingual communication and disaster preparedness/responses in Japan. Nov. 16, 2023. *Roundtable on multilingual approaches to disaster preparedness* (RMIT University).

Yoshida, R. Trust in community interpreting in Japan: Towards a greater role for language professionals. Nov. 16, 2023. *Global Multicultural Communication Lecture Series* (RMIT University).

Yoshida, R., How "trust" is constructed and expressed in the narratives regarding the role of community interpreters. In the Panel *How Japanese central and local governments view the needs for interpreting services and the role of interpreters in their administrative undertakings* (by Takeda, K., Marszalenko, J., Inagaki, H., & Yoshida, R.) Aug. 18, 2023, European Association of Japanese Studies 2023 (Online).

G.知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし